英語（外国語）はこう変わる

目標を3つの柱で整理し、語彙リスト・新科目名・AI活用で「発信力」を強める改訂（審議まとめ段階の方向性。告示前のため変わる可能性あり）

3行でいうと

1. 「言語活動」を「コミュニケーション活動」と「それを支える活動」に分け直し、英語の目標は「知・技」「思・判・表」「学びに向かう力」の3つの柱で示す方向。
2. 国が基盤語彙リストを作り、中学校の文法は使用頻度の高いものに絞り、「社会的な話題」は「身近な社会的な話題」にするなど、難しくなりすぎた内容を適正化する方向。
3. 高校の科目は「英語コミュニケーション（総合）」「同（発信）」（いずれも仮称）とする案。B2レベル相当以上などの要件を満たす場合の必履修科目の免除・振替や、AIの適切な活用の明記も提案された。

主な変更点

【全】英語の目標を「3つの柱」で示す

現行の英語の目標（高校は科目目標）は「聞くこと」など5つの領域別に書かれていた。次期は外国語の目標と同じように「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で示す。領域ごとの細かい「できること」は「内容」の方へ移す。

【全】「内容」を学年段階の目安つきの表で示す

領域別の目標の要素を「内容」に移し、話題や活動がだんだん高度になる様子を、「〇学年相当」という目安とともに表形式で示す。学年ではっきり区切るのではなく、柔軟性を残した目安とする。表は「知・技」と「思・判・表」を並べる「並行」パターン。

【小/中】学年ごとの目標の一律の作成義務をなくす方向

学習指導要領自体が段階的な内容を示すようにするため、これまで各学校に求められていた「学年ごとの目標」の一律の作成義務はなくすべきとされた。必要な場合に学校が任意で作る位置付けになる見込み。

【全】「言語活動」から「コミュニケーション活動」へ

学習の中心を「コミュニケーション活動」（主に思・判・表を育てる）と「コミュニケーション活動を支える活動」（主に知・技を育てる）に分けて整理し、目標の柱書に書く。単元はコミュニケーション活動を中心にしながら、2つの活動を行き来して力を一体的に育てる。

【全】「言語の使用場面」「言語の働き」の名前と置き場所が変わる

現行で「内容」にある言語活動・言語の使用場面・言語の働きの例は、「指導計画の作成と内容の取扱い」に移し、
「コミュニケーション活動」
「コミュニケーションの場面」
「コミュニケーションの意図（仮称）」と呼ぶ。
「内容」は資質・能力だけに絞る。

【全】「統合的な理解」と「総合的な発揮」

知・技のゴールの姿を「統合的な理解」（英語のきまりを組み合わせて使うと理解や表現の質が高まると分かっている姿）として示す。思・判・表は「総合的な発揮」として、CEFRの分類を参考に「理解する」「表現する」「伝え合う」の3つに分けて書く。
5領域をバランスよく育てる授業づくりをうながすねらい。

【全】外国語の「見方・考え方」を新しく

「外国語及び外国語によるコミュニケーションを、文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図ること」と整理し直す（現行101字→91字）。
AI時代に学ぶ意義と、人間ならではの非言語コミュニケーションも意識した表現。

【全】「学びに向かう力」を4つの要素に

①コミュニケーションへの興味・関心と伝えたい考えの形成、②対話・協働で考えを広げ深める態度、③自己イメージを持ち振り返りながら学習を調整する態度、④主体的に他者との相互理解を深めようとする心情、の4つに整理する。目標の文もこれに合わせて書き換える。

【全】「練習」という言葉を使わない

「練習」という言葉から思い浮かべるイメージが人によって違うことや、本文でこの語を使う教科がごく一部であることから、学習指導要領本文では「練習」を使わずに必要な活動を書く。

【中/高】「授業は英語で行うことを基本とする」考え方を維持

現行は「授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いる」と定めている。審議まとめでは「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」を堅持するとされた。そのうえで、国がクラスルームイングリッシュなどの表現集や動画を用意し、教師の補助的な日本語使用や、AI活用も含めた児童生徒の母語使用についての考え方を解説で示す。

語数・科目

現行の語数の目安：小600〜700／中1,600〜1,800／高1,800〜2,500（合計4,000〜5,000）→ 次期は国が**基盤語彙リスト**を作成（語数は未定）。高校：英語コミュニケーション→**英語コミュニケーション（総合）**、論理・表現→**英語コミュニケーション（発信）**（いずれも仮称）。必履修科目の履修免除はCEFR B2相当以上。

出典：中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省資料。告示前の方向性で、今後変わることがあります。｜原田英語.com 次期指導要領ナビ https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/（2026年11月4日 版）